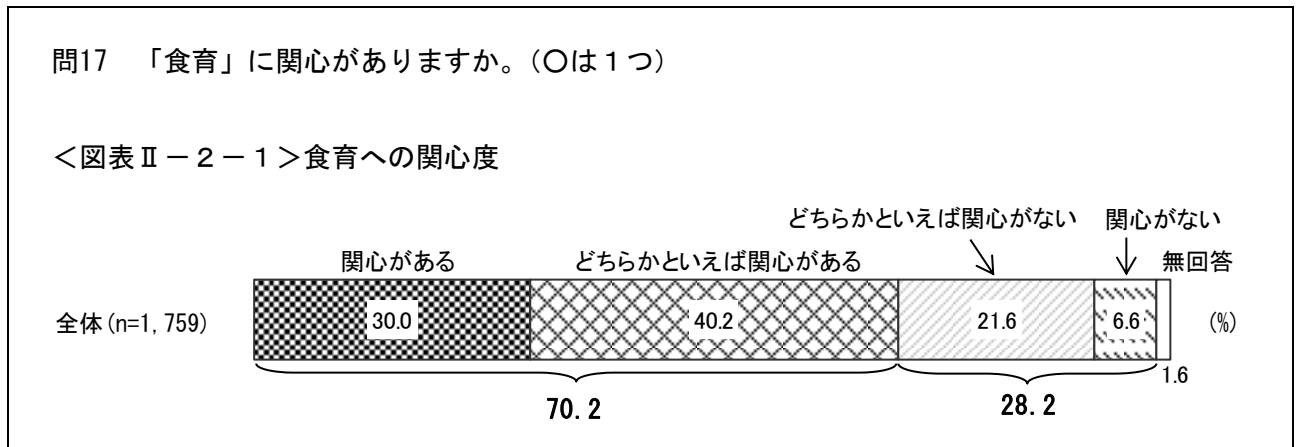


2 食育について

（1）食育への関心度

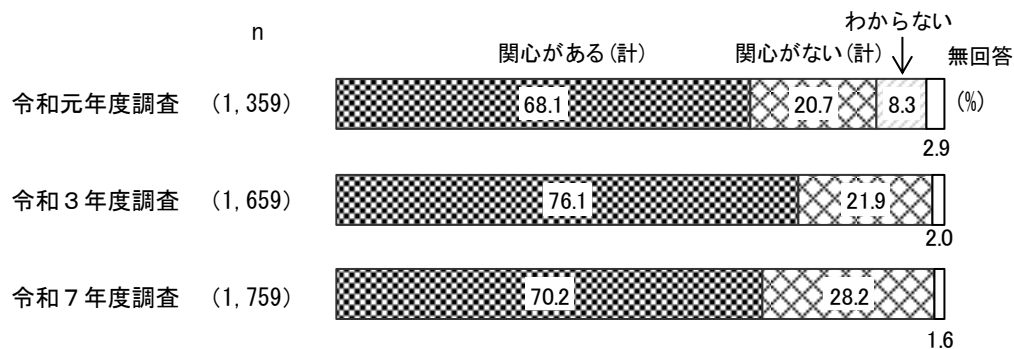
◇『関心がある（計）』が7割



食育に関心があるか聞いたところ、「関心がある」（30.0％）と「どちらかといえば関心がある」（40.2％）を合わせた『関心がある（計）』（70.2％）が7割となっている。

一方、「どちらかといえば関心がない」（21.6％）と「関心がない」（6.6％）を合わせた『関心がない（計）』（28.2％）が約3割となっている。（図表Ⅱ－２－１）

〔参考〕令和元年度・3年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



（※）令和元年度調査は「わからない」を設けて実施

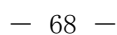
【地域別】

地域別で大きな傾向の違いはみられない。（図表Ⅱ－２－２）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『関心がある（計）』は女性の30代（83.5％）が8割台半ば、女性の65～69歳（82.1％）が8割を超え、女性の40代（80.9％）と女性の50代（80.3％）が8割で高くなっている。

一方、『関心がない（計）』は男性の75歳以上（48.2％）が約5割、男性の70～74歳（46.1％）が4割台半ば、男性の50代（42.0％）が4割を超えて高くなっている。（図表Ⅱ－２－２）



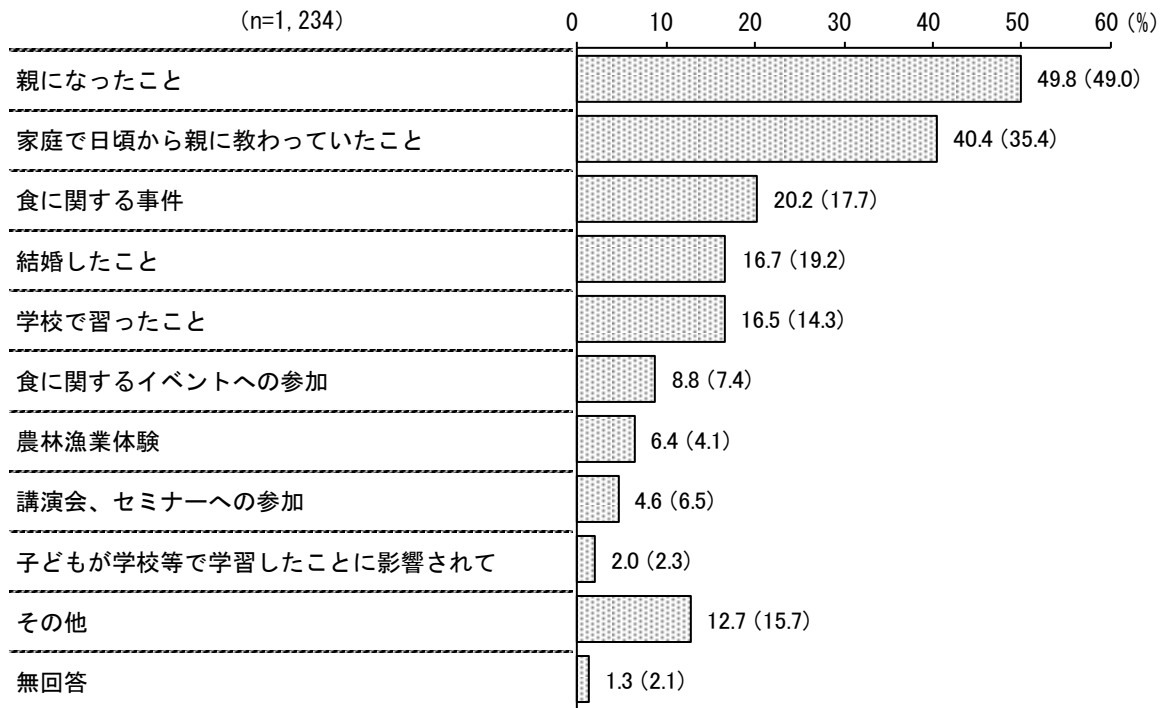
（１－１）食育に関心を持ったきっかけ

◇「親になったこと」が約５割

（問17で「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」とお答えの方に）

問17－１ 「食育」に関心を持ったきっかけは何ですか。（○はいくつでも）

＜図表Ⅱ－２－３＞食育に関心を持ったきっかけ（複数回答）



注）（ ）の数字は令和３年度の同様の項目による調査結果 n=1,262

食育に関心があると回答した 1,234 人を対象に、関心を持ったきっかけを聞いたところ、「親になったこと」(49.8%) が約５割で最も高く、以下、「家庭で日頃から親に教わっていたこと」(40.4%)、「食に関する事件」(20.2%)、「結婚したこと」(16.7%) が続く。(図表Ⅱ－２－３)

【地域別】

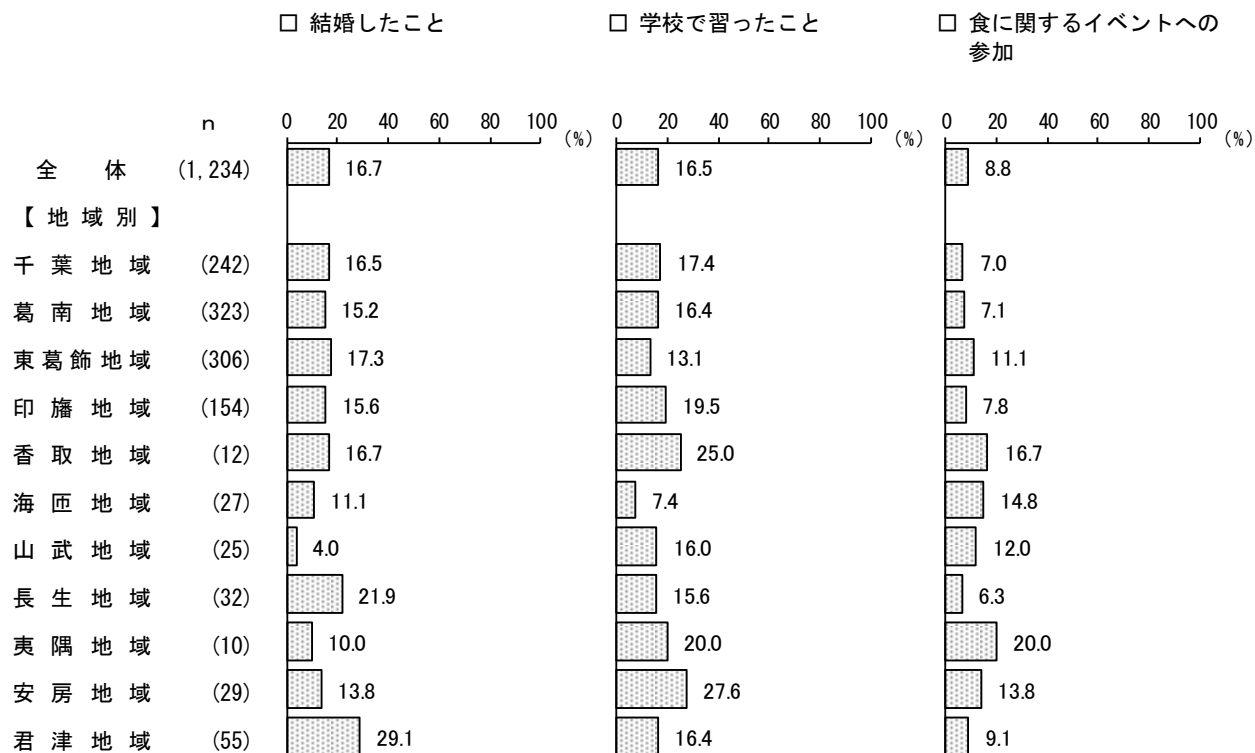
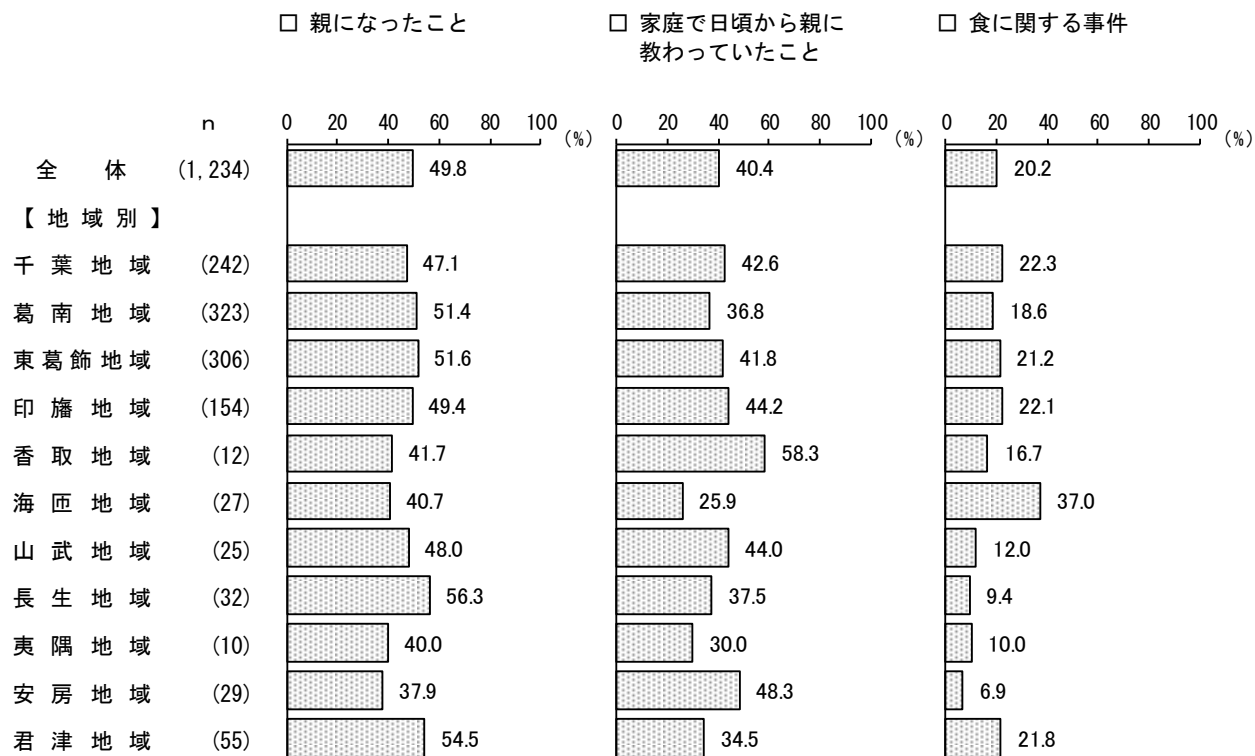
地域別にみると、「結婚したこと」は“君津地域”(29.1%) が約３割で高くなっている。

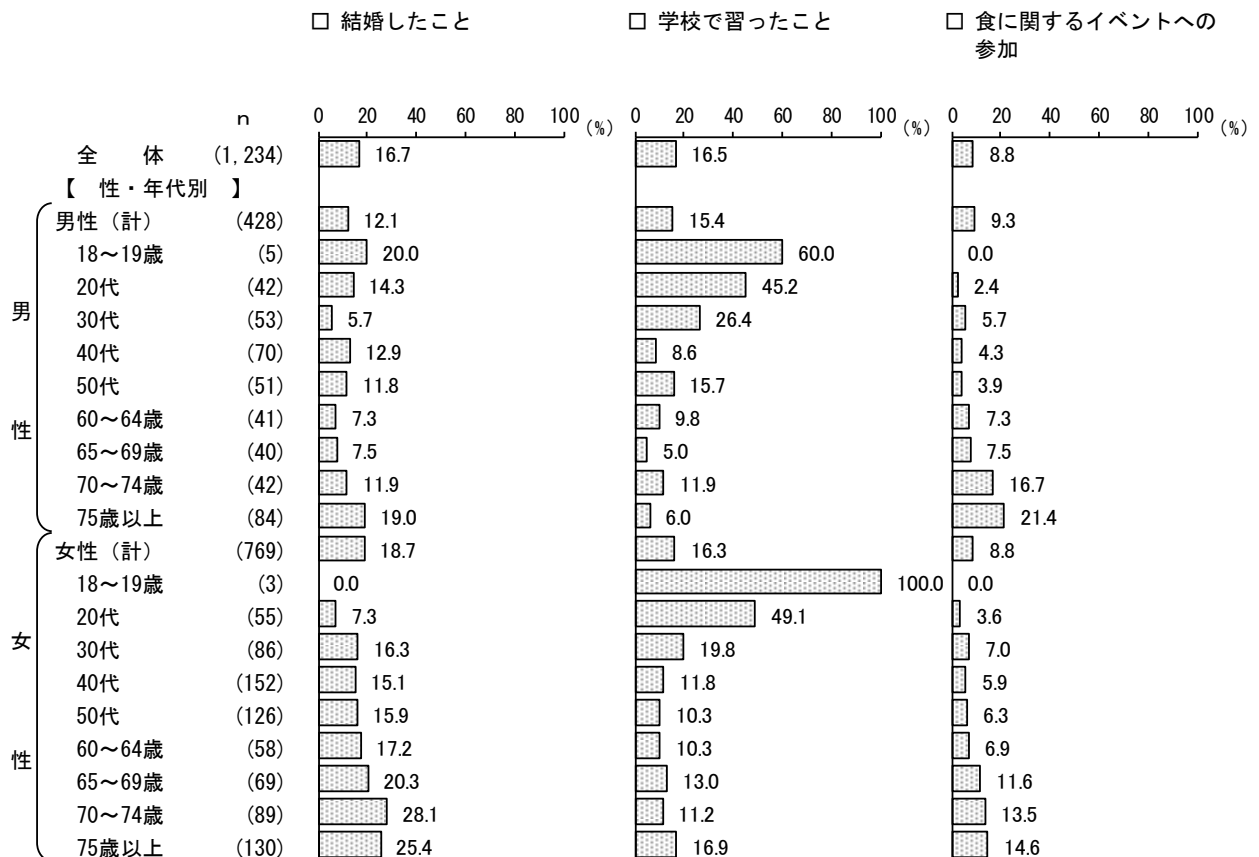
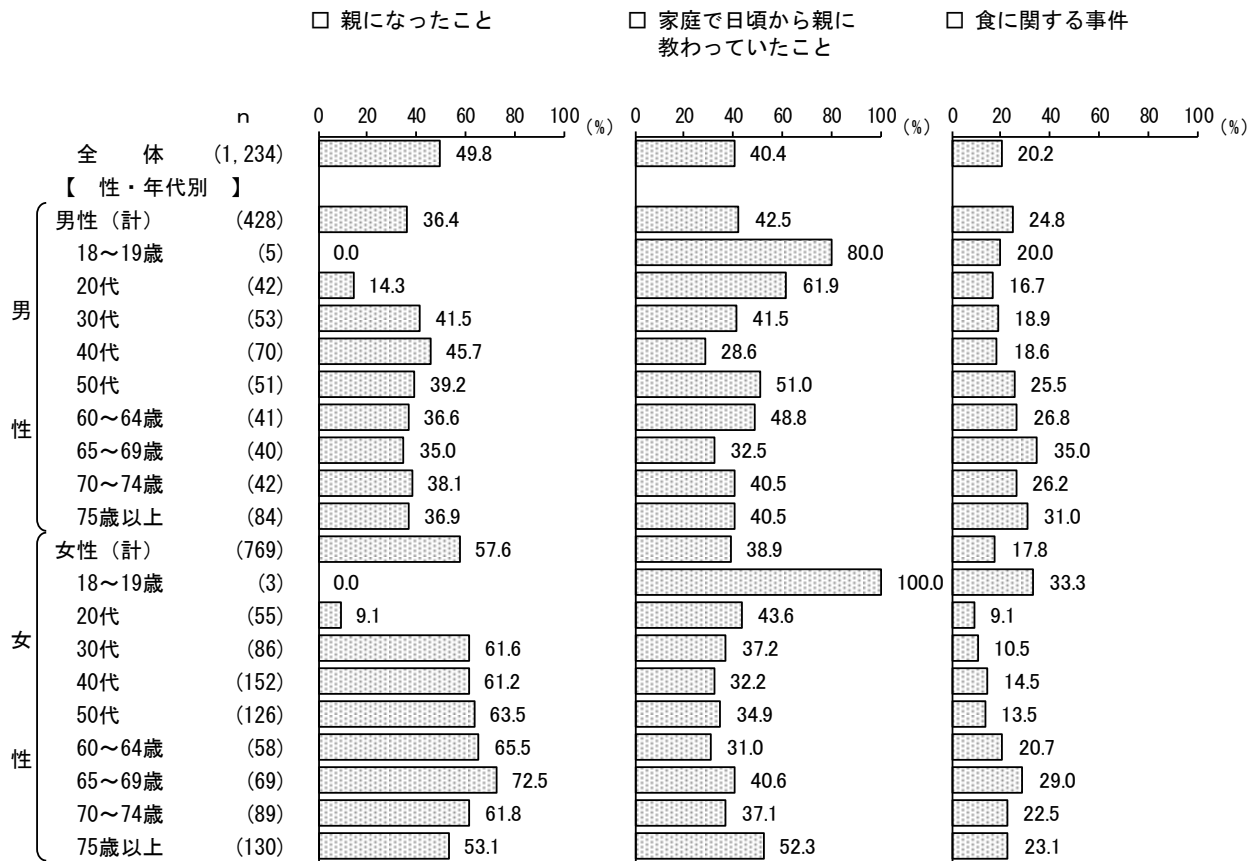
(図表Ⅱ－２－４)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「親になったこと」は女性の 65～69 歳 (72.5%) が 7 割を超え、女性の 60～64 歳 (65.5%) と女性の 50 代 (63.5%) が 6 割台半ば、女性の 70～74 歳 (61.8%)、女性の 30 代 (61.6%)、女性の 40 代 (61.2%) が 6 割を超えて高くなっている。(図表Ⅱ－２－４)

＜図表Ⅱ－２－４＞食育に関心を持ったきっかけ（複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）





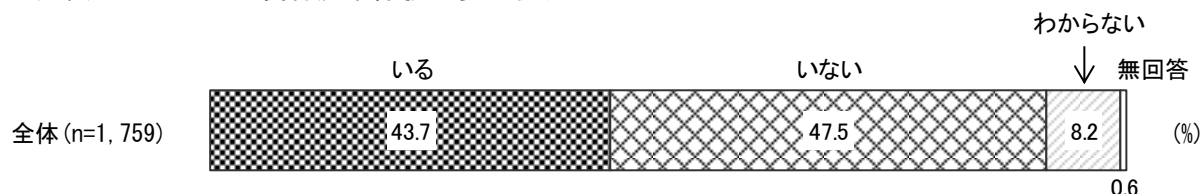
（２）農林漁業体験の参加状況

◇「いる」が４割台半ば

問18 あなた又はあなたの家族の中で、農林漁業に関する体験※に参加したことがある人はいますか。（○は１つ）

※ 「農林漁業に関する体験」とは、いちご狩りなどの収穫体験、農作業体験、学童農園での栽培や調理実習、学校での体験活動、市民農園での栽培体験、道の駅や交流施設などの体験活動、農林漁村に宿泊し交流する教育旅行などを指します。

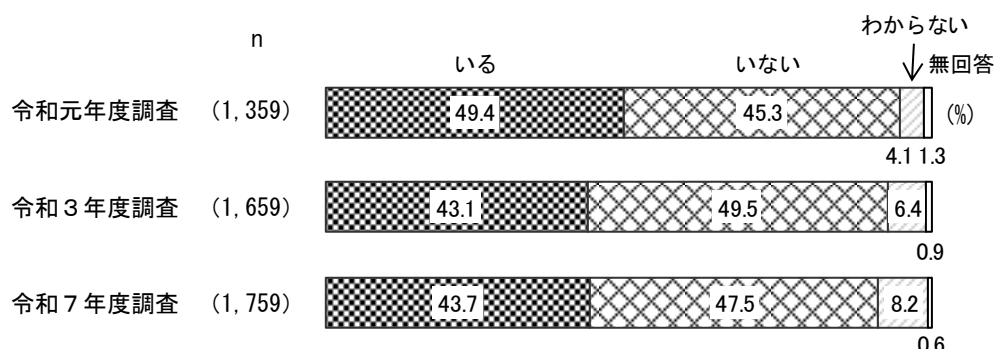
＜図表Ⅱ－２－５＞農林漁業体験の参加状況



自分又は自分の家族の中で、農林漁業に関する体験に参加したことがある人がいるか聞いたところ、「いる」（43.7%）が４割台半ばとなっている。

一方、「いない」（47.5%）が約５割となっている。（図表Ⅱ－２－５）

〔参考〕令和元年度・３年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

地域別にみると、「いる」は“安房地域”（61.5%）が６割を超えて高くなっている。

（図表Ⅱ－２－６）

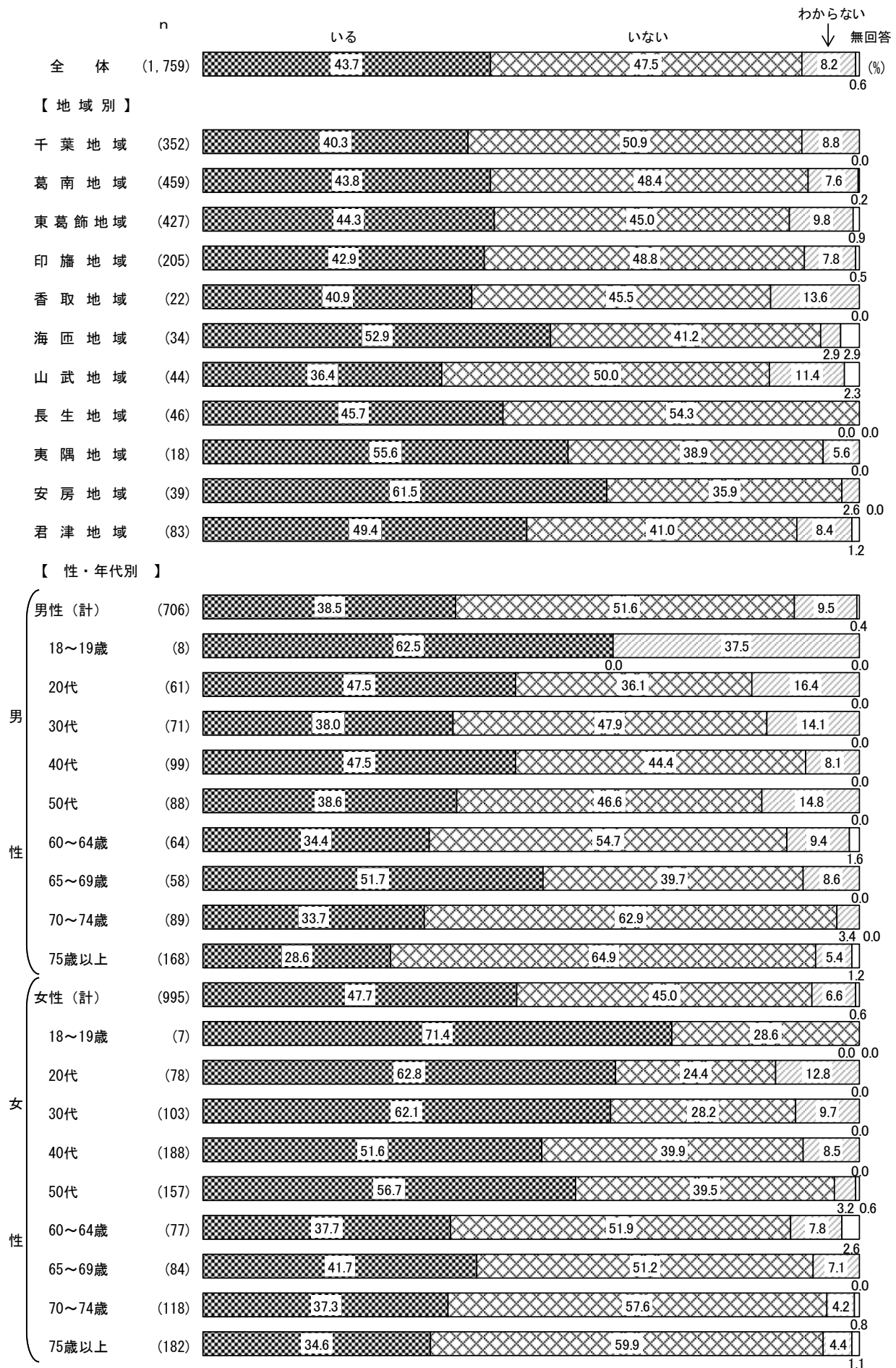
【性・年代別】

性・年代別にみると、「いる」は女性の20代（62.8%）と女性の30代（62.1%）が６割を超え、女性の50代（56.7%）が５割台半ば、女性の40代（51.6%）が５割を超えて高くなっている。

一方、「いない」は男性の75歳以上（64.9%）が６割台半ば、男性の70～74歳（62.9%）が６割を超え、女性の75歳以上（59.9%）と女性の70～74歳（57.6%）が約６割で高くなっている。

（図表Ⅱ－２－６）

＜図表Ⅱ－２－６＞農林漁業体験の参加状況／地域別、性・年代別

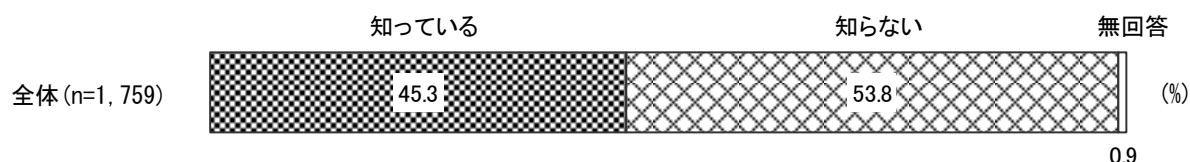


（３）食に関する文化の認知状況

◇「知っている」が４割台半ば

問19 地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理（郷土料理など）や作法（箸づかいなど）を知っていますか。（○は１つ）

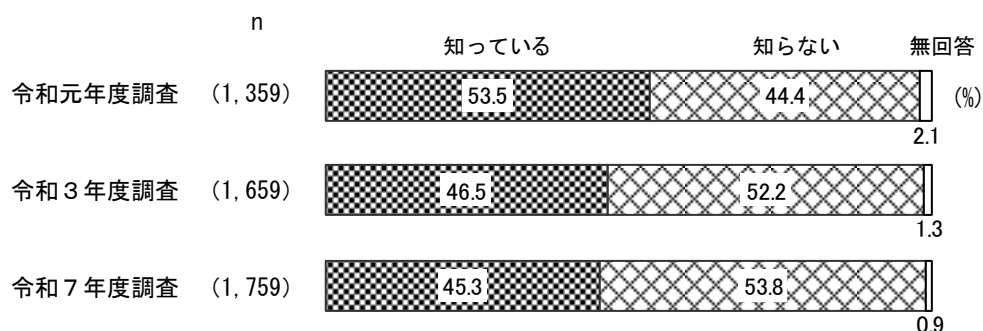
<図表Ⅱ－２－７>食に関する文化の認知状況



地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理（郷土料理など）や作法（箸づかいなど）を知っているか聞いたところ、「知っている」（45.3%）が４割台半ばとなっている。

一方、「知らない」（53.8%）が５割台半ばとなっている。（図表Ⅱ－２－７）

〔参考〕令和元年度・３年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

地域別にみると、「知っている」は“安房地域”（61.5%）が６割を超えて高くなっている。

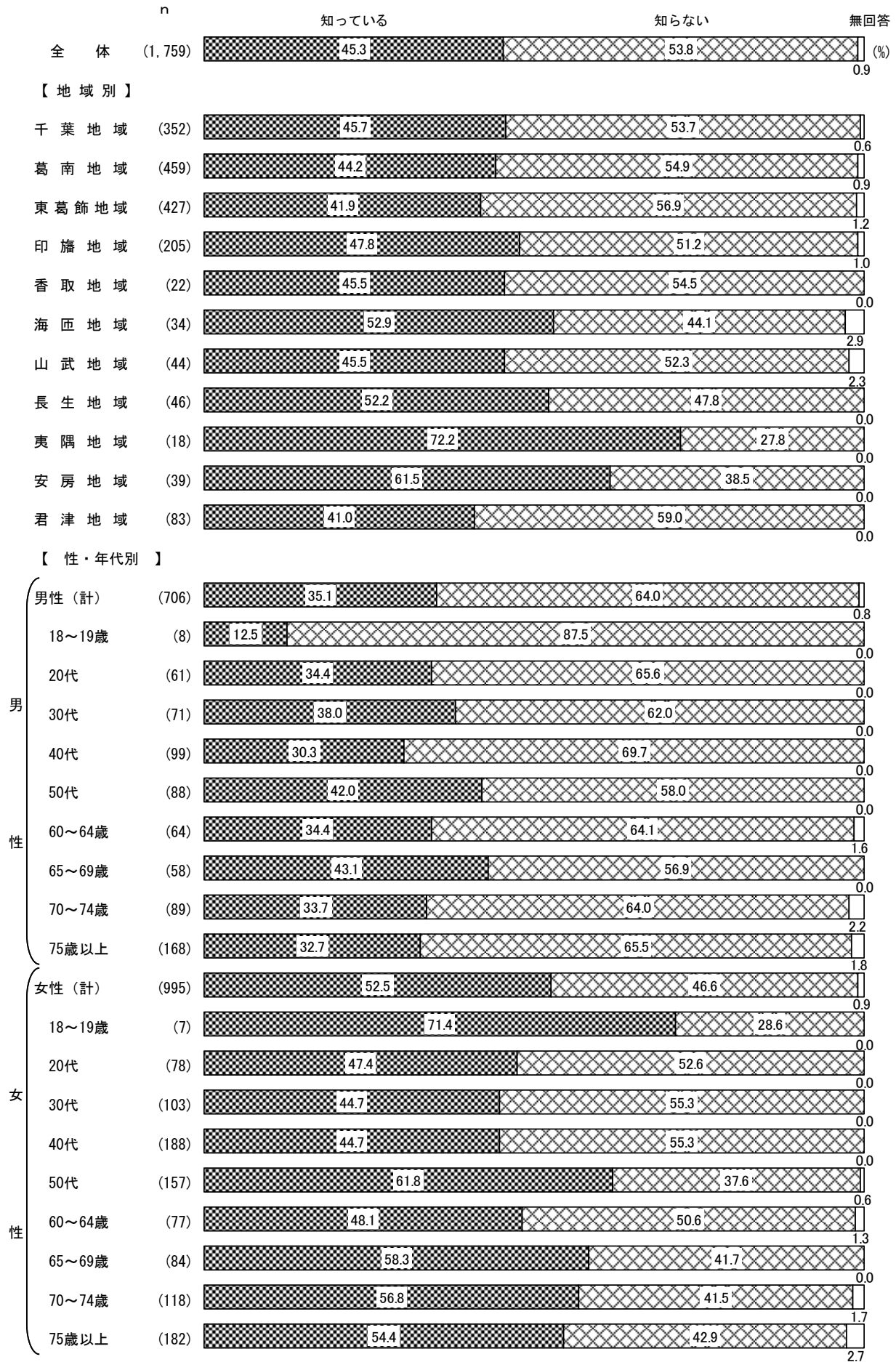
（図表Ⅱ－２－８）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「知っている」は女性の50代（61.8%）が６割を超え、女性の65～69歳（58.3%）が約６割、女性の70～74歳（56.8%）と女性の75歳以上（54.4%）が５割台半ばで高くなっている。

一方、「知らない」は男性の40代（69.7%）が約７割、男性の75歳以上（65.5%）と男性の70～74歳（64.0%）が６割台半ばで高くなっている。（図表Ⅱ－２－８）

<図表Ⅱ－２－８>食に関する文化の認知状況／地域別、性・年代別



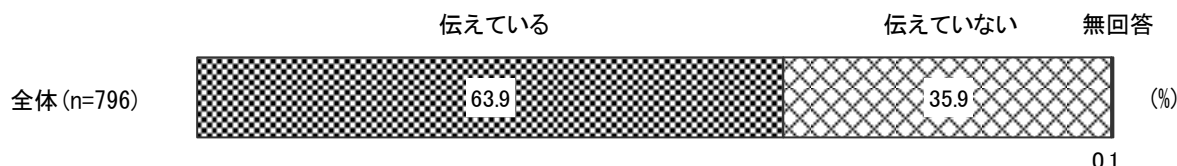
（３－１）食に関する文化の伝承

◇「伝えている」が６割台半ば

（問19で「知っている」とお答えの方に）

問19－１ 地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理（郷土料理など）や作法（箸づかいなど）を地域や次世代（子どもやお孫さん含む）に対して伝えていますか。（○は１つ）

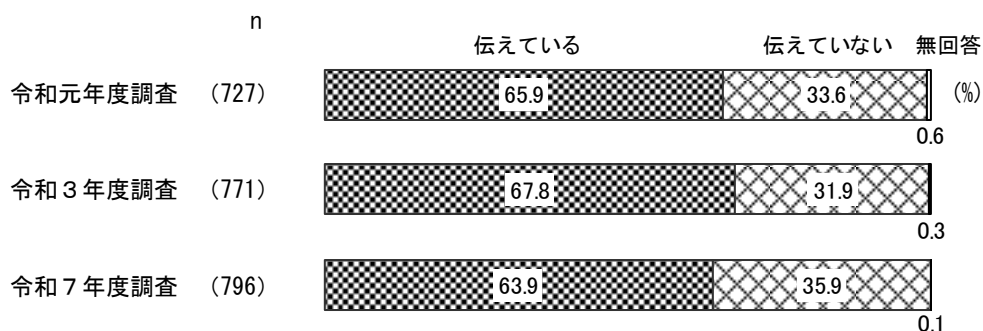
<図表Ⅱ－２－９>食に関する文化の伝承



地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法を知っていると回答した 796 人を対象に、地域や次世代（子どもやお孫さん含む）に対して伝えているか聞いたところ、「伝えている」（63.9%）が 6 割台半ばとなっている。

一方、「伝えていない」（35.9%）が 3 割台半ばとなっている。（図表Ⅱ－２－９）

〔参考〕令和元年度・３年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

地域別にみると、「伝えている」は“東葛飾地域”（70.9%）が 7 割で高くなっている。

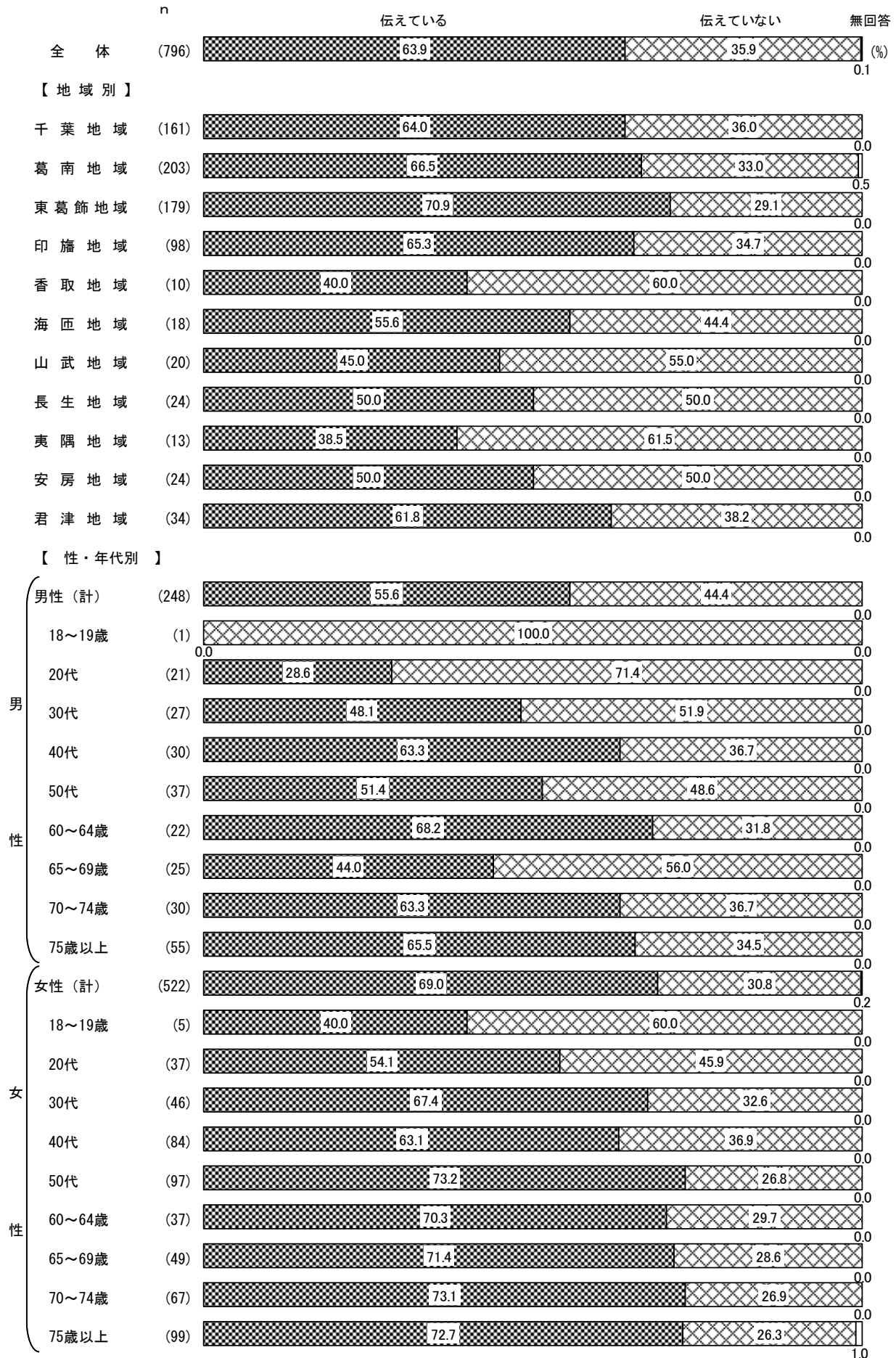
（図表Ⅱ－２－10）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「伝えている」は女性の50代（73.2%）が 7 割を超えて高くなっている。

（図表Ⅱ－２－10）

<図表Ⅱ－２－10>食に関する文化の伝承／地域別、性・年代別

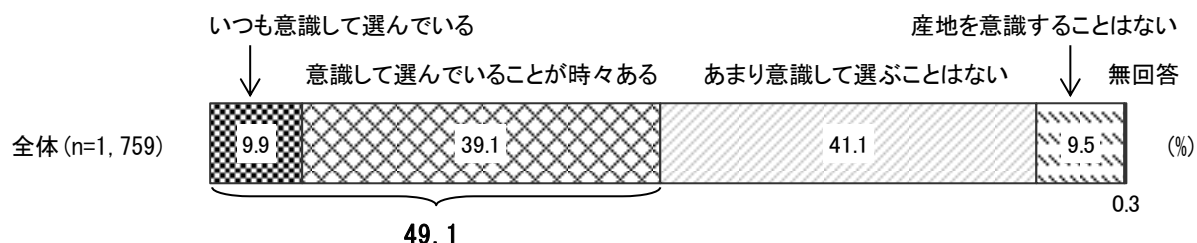


（４）農林水産物や食品購入時における千葉県産の意識の有無

◇『意識して選んでいる（計）』は約５割

問 20 あなたは、農林水産物や食品を購入する時、千葉県産であることを意識して選びますか。
（○は１つ）

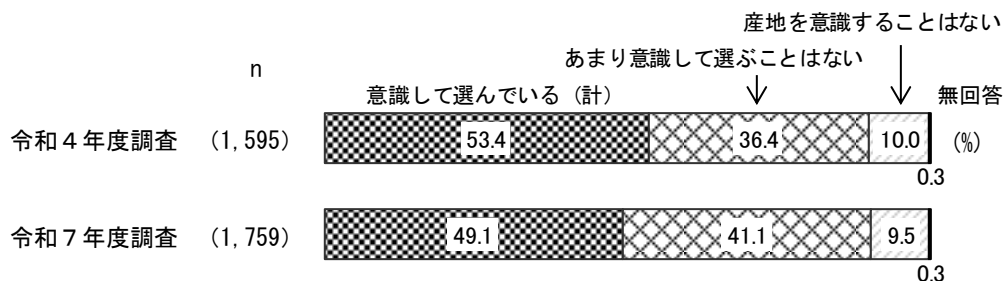
<図表Ⅱ－２－11>農林水産物や食品購入時における千葉県産の意識の有無



農林水産物や食品購入時における千葉県産の意識の有無を聞いたところ、「いつも意識して選んでいる」（9.9%）と「意識して選んでいることが時々ある」（39.1%）を合わせた『意識して選んでいる（計）』（49.1%）は約５割となっている。

一方、「あまり意識して選ぶことはない」（41.1%）は４割を超え、「産地を意識することはない」（9.5%）は約１割となっている。（図表Ⅱ－２－11）

〔参考〕令和４年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

地域別にみると、『意識して選んでいる（計）』は“印旛地域”（57.6%）が約６割で高くなっている。

一方、「あまり意識して選ぶことはない」は“東葛飾地域”（48.0%）が約５割で高くなっている。
（図表Ⅱ－２－12）

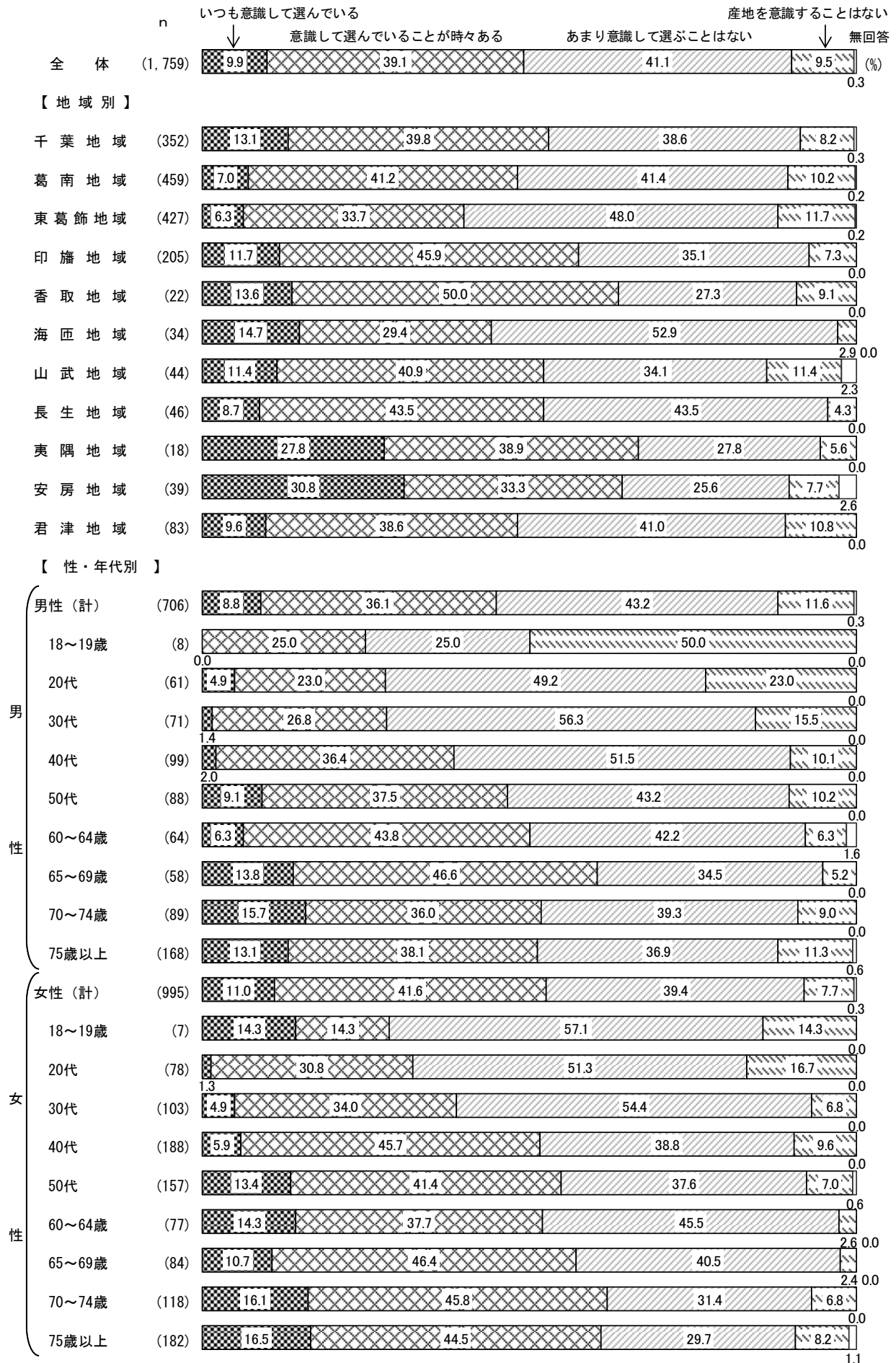
【性・年代別】

性・年代別にみると、『意識して選んでいる（計）』は女性の70～74歳（61.9%）と女性の75歳以上（61.0%）が６割を超えて高くなっている。

「あまり意識して選ぶことはない」は男性の30代（56.3%）と女性の30代（54.4%）が５割台半ば、男性の40代（51.5%）が５割を超えて高くなっている。

「産地を意識することはない」は男性の20代（23.0%）が２割を超え、女性の20代（16.7%）が１割台半ばで高くなっている。（図表Ⅱ－２－12）

<図表Ⅱ－2－12> 農林水産物や食品購入時における千葉県産の意識の有無／地域別、性・年代別



（５）有機農業により生産される農産物の購入頻度

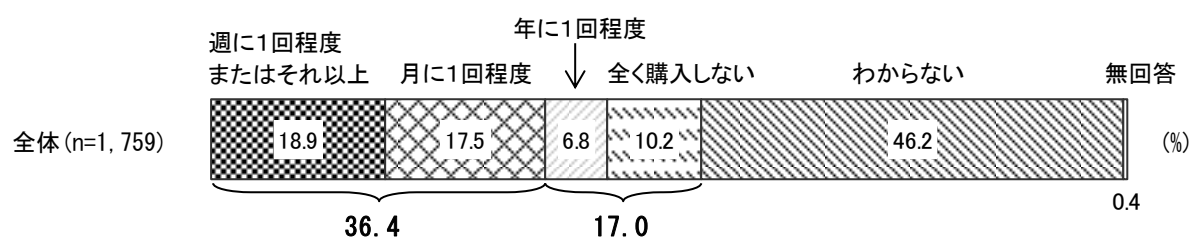
◇『購入する（計）』は３割台半ば

問 21 あなたは、どのくらいの頻度で、有機農業※により生産される農産物を購入していますか。

（○は１つ）

※ 「有機農業」とは、化学的に合成された肥料や農薬を使用しないこと、遺伝子組み換え技術を利用しないことを基本として、環境への負荷をできるだけ低減した生産方法で行われている農業のことです。

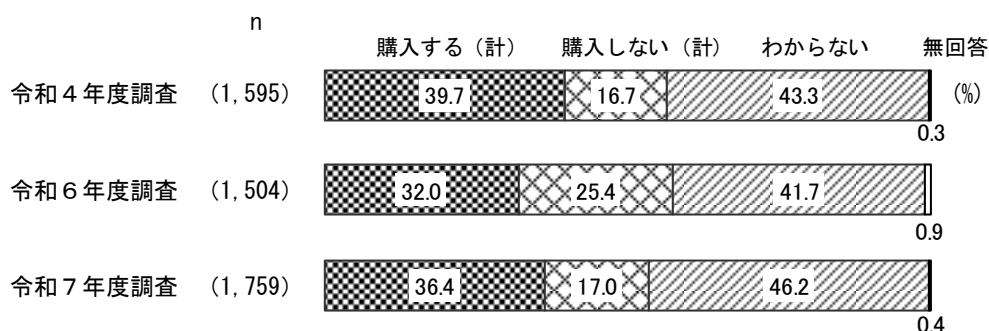
＜図表Ⅱ－２－13＞有機農業により生産される農産物の購入頻度



有機農業により生産される農産物の購入頻度を聞いたところ、「週に1回程度またはそれ以上」（18.9%）と「月に1回程度」（17.5%）を合わせた『購入する（計）』（36.4%）は3割台半ばとなっている。

一方、「年に1回程度」（6.8%）と「全く購入しない」（10.2%）を合わせた『購入しない（計）』（17.0%）は約2割となっている。（図表Ⅱ－２－13）

〔参考〕令和4年度・6年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

地域別にみると、『購入する（計）』は“印旛地域”（47.3%）が約5割で高くなっている。

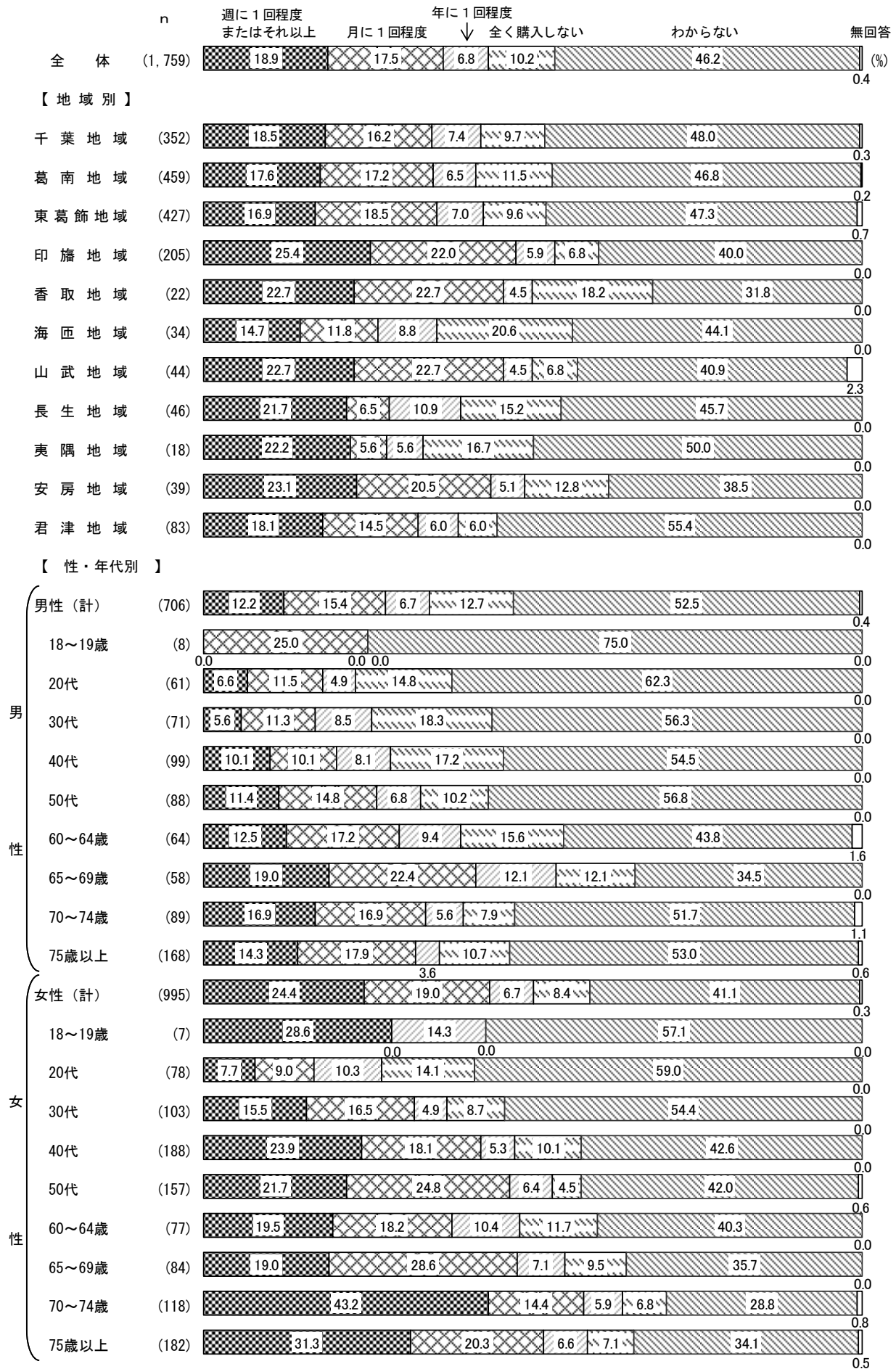
（図表Ⅱ－２－14）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『購入する（計）』は女性の70～74歳（57.6%）が約6割、女性の75歳以上（51.6%）が5割を超え、女性の65～69歳（47.6%）が約5割、女性の50代（46.5%）が4割台半ばで高くなっている。

一方、『購入していない（計）』は男性の30代（26.8%）と男性の40代（25.3%）が2割台半ばで高くなっている。（図表Ⅱ－２－14）

<図表Ⅱ－2－14>有機農業により生産される農産物の購入頻度／地域別、性・年代別



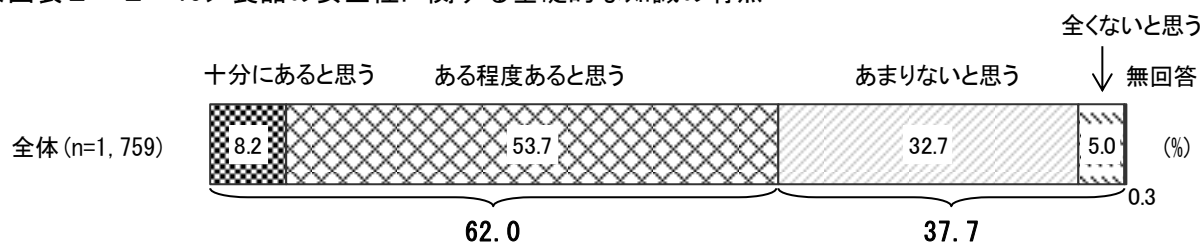
（６）食品の安全性に関する基礎的な知識の有無

◇『あると思う（計）』は6割を超える

問22 あなたは、安全な食生活を送るための、「食品の安全性に関する基礎的な知識※」があると思いますか。（○は1つ）

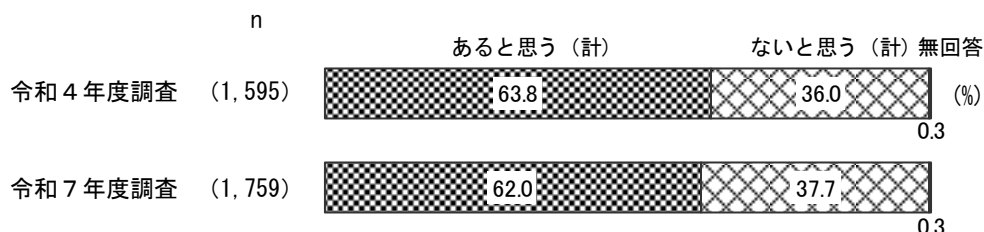
※ 「食品の安全性に関する基礎的な知識」とは、消費期限やアレルギー物質などの表示の理解や、食中毒を防ぐ調理方法、健康食品の正しい知識や選び方等です。

<図表Ⅱ－2－15>食品の安全性に関する基礎的な知識の有無



「食品の安全性に関する基礎的な知識」の有無を聞いたところ、「十分にありと思う」(8.2%)と「ある程度ありと思う」(53.7%)を合わせた『あると思う（計）』(62.0%)は6割を超えている。一方、「あまりないと思う」(32.7%)と「全くないと思う」(5.0%)を合わせた『ないと思う（計）』(37.7%)が約4割となっている。（図表Ⅱ－2－15）

〔参考〕令和4年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

地域別にみると、『あると思う（計）』は“印旛地域”（69.8%）が約7割で高くなっている。一方、『ないと思う（計）』は“葛南地域”（41.6%）が4割を超えて高くなっている。

（図表Ⅱ－2－16）

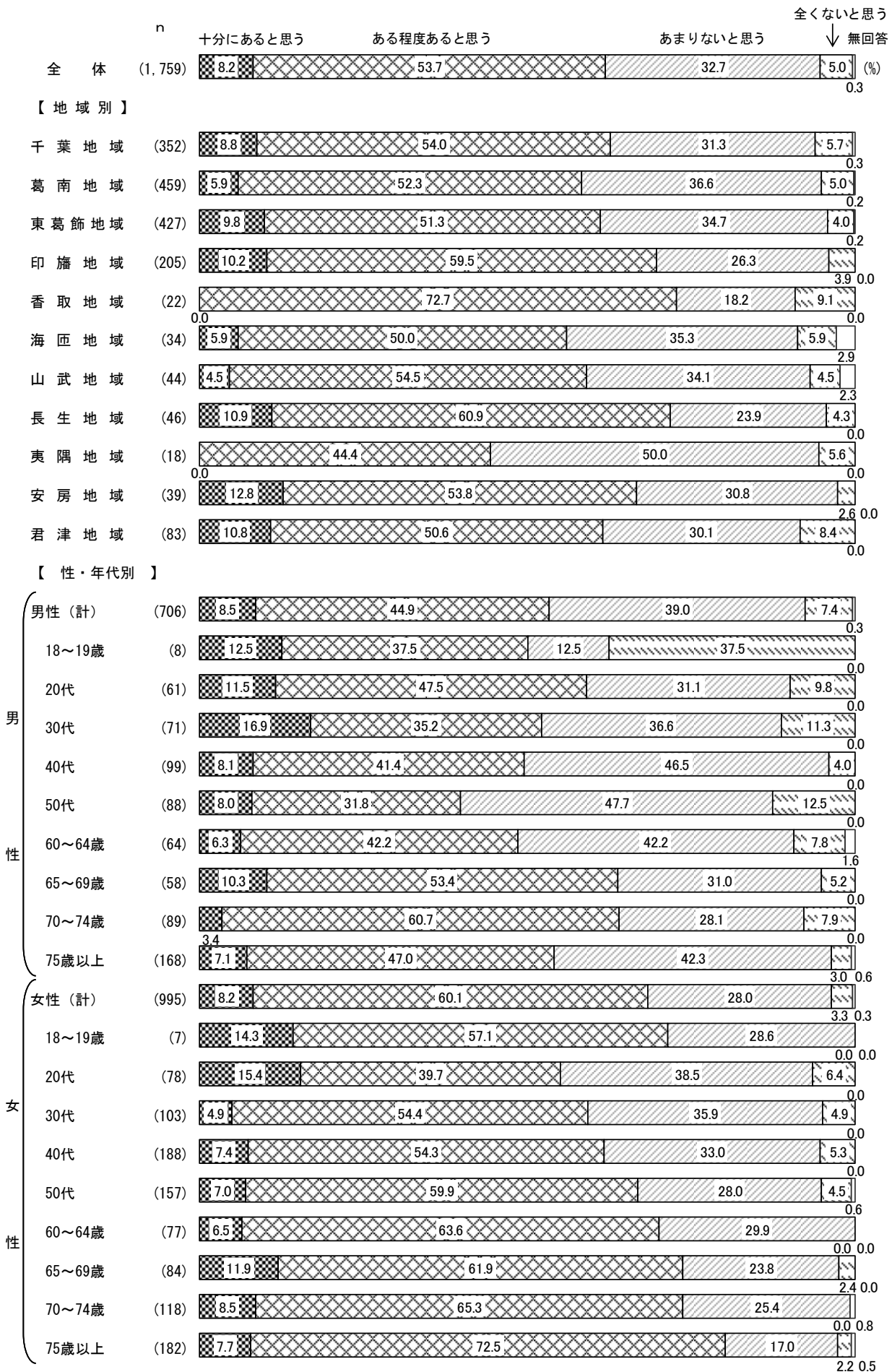
【性・年代別】

性・年代別にみると、『あると思う（計）』は女性の75歳以上（80.2%）が8割、女性の65～69歳（73.8%）と女性の70～74歳（73.7%）が7割台半ばで高くなっている。

一方、『ないと思う（計）』は男性の50代（60.2%）が6割、男性の40代（50.5%）と男性の60～64歳（50.0%）が5割、男性の75歳以上（45.2%）が4割台半ばで高くなっている。

（図表Ⅱ－2－16）

＜図表Ⅱ－２－16＞食品の安全性に関する基礎的な知識の有無／地域別、性・年代別



このほかにも、「食育について」や問17～問22について、ご意見やご提案がありましたらご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、174人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「食育について」の自由回答（抜粋）

○学校給食には、なるべく県産品を使うようにしたり、さんが焼き（なめろうは衛生上難しいので）など、郷土料理は定期的にメニューに加えるようにしていただければと思います。

（男性、40代、東葛飾地域）

○地産地消（千産千消）は千葉県でしか使えない言葉と思っているので食育とうまく絡めていけたらと思います。

（男性、50代、千葉地域）

○必要に迫られて自炊していますが、千葉県産の素材を使って安くて簡単にできる料理があれば挑戦してみたいです。

（男性、60～64歳、千葉地域）

○教育（校外学習など）の中で農林漁業に関する体験がもっとできると良いと思います。学年やクラスで野菜を育てることや米を植える等体験できると意識も変わると思います。

（女性、40代、東葛飾地域）

○農林漁業の体験活動を行政主体でもっと行えたら、人々の参加も増え、食育推進に役立つと思う。

（男性、65～69歳、葛南地域）

○地域に伝わる伝統的な食べ物や文化など、核家族が進む中で、きちんと子供たちに伝えていく機会を増やせる場を多く持たせたい。

（男性、65～69歳、千葉地域）

○伝統である花寿司の作り方を教えてくれたのは、義理のお母さんでした。細いのり巻き（食紅で桜色に色付けていた）をたくさん作り、組み合わせ、きれいなお花の切り口のお寿司に感動しました。いつか子供にも伝えていきたいです。

（女性、65～69歳、葛南地域）

○祖父母から教えてもらうことが今の時代ない。途絶えてしまう。知りたいし、伝えたい。次の世代に伝えたい。生きていくのに必要な知恵や生きるすべだと思うから。（農業、林業、漁業、伝統、伝統工芸（うちわ）、料理もすべてが）。

（女性、40代、千葉地域）

○農薬、添加物使用と健康の問題など小さい時から知っておく必要があるので、学校教育でも触れてほしい。また、情報を発信してほしい。

（女性、75歳以上、葛南地域）

○日本企業が海外のものを輸入して販売する際に分かりやすくしてほしい。あたかも日本産であるみたいに装うのをやめてほしい。

（女性、30代、千葉地域）

○野菜など産地が書いてあるので国産を選んでいる。農薬散布の時期がいつなのか、収穫近くなのかは表示されていないのが不安である。安全性の表示をわかりやすくしてほしいと思う。

（女性、65～69歳、海匝地域）

○薬を使用しない野菜等は安全だとは認識しているのですが、虫がついていたり虫が食べて穴があいている物はどうしても買うのに抵抗があります。

（女性、70～74歳、印旛地域）

○有機農業により生産された農産品は、普段行くスーパーなどで見かけることは極めて少なく、積極的に選ぶことはできません。有機農業がより身近な存在になると良いです。

（女性、20代、葛南地域）